



入学式



機械工作実習 I

寮祭



新入生合宿研修



## 目次

## ☆沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針

## ☆新年度にあたって (年度方針等)

沼津高専の新たな教育	…………… 学校長	柳下 福藏	… 4
—学際3分野を深化する認定専攻科の発足—			
沼津高専版教育改革本番の年	…………… 副校長 (教務主事)	蓮 實文彦	… 4
新年度にあたって	…………… 校長補佐 (学生主事)	大久保清美	… 5
目標は「Clear」	…………… 校長補佐 (寮務主事)	遠 藤良樹	… 5
平成26年度専攻科入学生から始まる大きな変革	…………… 校長補佐 (専攻科長)	押 川達夫	… 6
平成26年度の機械工学科	…………… 機械工学科長	村 松久巳	… 7
平成26年度を迎えて	…………… 電気電子工学科長	佐 藤憲史	… 8
D科クリエイティブ・ラボがオープン	…………… 電子制御工学科長	遠 山和之	… 8
目標 (夢) を持つ大切さ	…………… 制御情報工学科長	藤 尾三紀夫	… 9
物質工学科 平成26年度にあたって	…………… 物質工学科長	後 藤孝信	… 10
一般科目の役割	…………… 教養科長	勝 山智男	… 10

## ☆人事異動について

平成26年度人事異動	……………		… 11
平成26年度校務分掌・学級担任	……………		… 12
平成26年度学生会・クラブ・同好会顧問教員	……………		… 13
平成26年度学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー	……………		… 13

## ☆着任挨拶

社会に役立つ若い技術者の育成を目指して	…………… 機械工学科	鈴木 尚人	… 14
ネットワーク型人間に向けて	…………… 電気電子工学科	小 村元憲	… 14
着任して	…………… 電子制御工学科	大 林千尋	… 15
「人間到る処青山有り」	…………… 物質工学科	青 山陽子	… 15
人柄のよい優秀な技術者に	…………… 教養科	小 村宏史	… 16
驚いた『点呼』	…………… 教養科	笹 原正和	… 16
自己紹介	…………… 教養科	黒 澤恵光	… 17
将来の技術者等への期待	…………… 事務部長	大 山正人	… 17

## ☆新入生から (入学にあたり)

高専に向けての全力という行為	…………… 1年1組	岩 倉一真	… 18
高専入学後の抱負と目標	…………… 1年2組	林 茂樹	… 18
これからに向けて	…………… 1年3組	寺 嶋茜	… 19

## ☆卒業生から

課題解決エンジン	…………… 制御情報工学科5期	藤 門千明	… 19
自分と向き合い、人と向き合う	…………… 物質工学科38期・専攻科A13期	蔭 山夏美	… 20

## ☆留学生から

日本に留学するマレーシア人	…………… 機械工学科3年	モハド ライス ピン イスマイル	… 20
ラオスから来ました。	…………… 物質工学科3年	ブアロン チア シア リー	… 21

## ☆寮生会活動について

沼津高専学生寮の現状	…………… 電気電子工学科4年寮長	石 川和磨	… 22
------------	-------------------	-------	------

## ☆私の高専時代

成長を実感できた5年間	…………… 機械工学科20期	芹 澤弘秀	… 22
-------------	----------------	-------	------

## ☆教育後援会から

会長就任のご挨拶	…………… 教育後援会会長	鈴木 一洋	… 23
----------	---------------	-------	------

## ☆入学に際して保護者から

仲間と共に充実した高専ライフを	…………… 新入生保護者 (1年4組)	加藤真一郎	… 24
仲間	…………… 新入生保護者 (1年5組)	海 野正高	… 24

## ☆事務部から

平成26年度沼津高専1日体験入学のお知らせ	……………		… 25
平成26年度 (8月～3月) 行事予定表	……………		… 26

# 沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

## 教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

## 目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

## 養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

## 学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

## 本科

### 教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

### 学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

## 専攻科

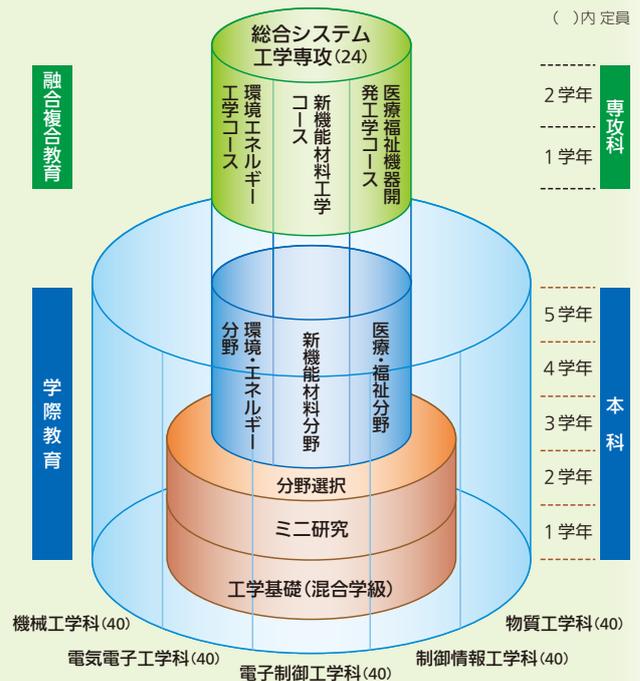
### 教育方針

融合複合領域の学際分野においてイノベーションを創出できる実践的・創造的エンジニアを育成するために、融合複合領域の専攻科実験、長期インターンシップによるエンジニアリングデザイン教育の実質化及び専攻科研究のマンツーマン指導などの教育方針のもとに以下の学習・教育目標を達成する。

### 学習・教育目標

- ①社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的思考力
- ②数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- ③工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- ④コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- ⑤産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢

## 本科の学際教育を深化する専攻科3コース



## 新年度にあたって (年度方針等)



### 沼津高専の新たな教育 —学際3分野を深化する 認定専攻科の発足—

学校長  
柳下 福藏

平成16年度に独立行政法人化した国立高等専門学校は第一期（平成16～20年度）の助走期間を経て、平成26年度は高専教育の高度化を目標とした第二期（平成21～25年度）に続く第三期の発足の年となります。

沼津高専は平成22・23年度に亘って慎重に審議を重ね、環境・エネルギー、医療・福祉、新機能材料の3分野を重視する学際教育を平成24年度新入生から開始しました。専攻科は従前の複専門を教育理念とした3専攻から本科の学際3分野を深化する総合システム工学専攻（環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース）の1専攻3コースに改編することとし、国立高専機構、文部科学省および(独)大学評価・学位授与機構の認可のもとに認定専攻科として平成26年度から発足の運びとなりました。

上記の沼津高専の教育改革は『高等専門学校教育の充実について（中央教育審議会、平成20年12月答申）』に示された下記4項目と整合し、着実にその実質化を進めるための具体策であります。

- それぞれの高等専門学校が自主的・自発的改革に不断に取組み、社会経済環境の変化に積極的に対応
- 中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ
- 多様な高等教育機関のうちの一つとして本科・専攻科の位置付けを明確に
- 産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者等の輩出へ

平成21年度から5年間継続した文部科学省事業「富士

山麓医用機器開発人材養成プログラム（F-met）」は平成26年度からは静岡県の財政支援のもとに「沼津高専特別課程」として継続することになり、14名の社会人受講生が隔週土曜日の講義に熱心に取り組んでいます。

今後は、専攻科の医療福祉機器開発工学コースの修了生と特別課程の社会人修了生がファルマバレープロジェクトを推進する医療機器開発の中核人材として育成され、県東部地域の産業振興に貢献していくことになります。

認定専攻科の発足を記念し、併せて昨年度補正予算で設置された学際3分野の教育用大型設備を近隣の産学官金の関係者に披露する会を5月21日(水)午後15時に開催し、(独)国立高等専門学校機構の小畑秀文理事長に「生きている人体の解剖を目指して—医用画像の完全理解とその応用—」と題する記念講演を頂戴しました。

創立50周年を機に「進化する高専」を標榜する沼津高専は、地域産業界や行政との連携を一層進展させ、人柄のよい優秀な技術者の育成はもとより、県東部に唯一の工科系国立高等教育機関としての使命を着実に果たして行く所存であります。

保護者の皆様のご理解と、変わらぬご支援・ご協力をお願いして平成26年度初めのご挨拶とさせていただきます。



教育研究支援センター



### 沼津高専版 教育改革本番の年

副校長（教務主事）  
蓮 實 文 彦

本年度、柳下校長を中心に平成21年より、調査・研究が進められてきた沼津高専の教育改革がいよいよ本番の年を迎えました。3年生から導入される「学際教育」と「改編専攻科」のスタートです。学際教育では前期より、

エネルギー変換工学Ⅰ（環境・エネルギー分野）、材料科学基礎Ⅰ（新機能材料分野）、基礎生理学（医療・福祉分野）の3つの新たな講義がスタートしました。専攻科も学際教育を深めたプログラムが環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、それに医療福祉機器開発工学コースの3つに分かれ、押川新専攻科長を中心に順調に進んでおります。これらの改革を支えるため、2名の定員外（定員に加えて）教員を含め新たに8名の新進気鋭の教員が加わりました。いずれの教員も、新たに設けられた「学際教育」と「改編専攻科」のそれぞれの分野でのエキスパートです。6億円を超える昨年度の補正予

算で導入された最先端の研究機器と相まって、研究・教育面での大きな成果が期待されます。特に定員の削減が進む独立行政法人化された高等教育機関にあって、定員外の教員が増員となることは異例です。このことも、沼津高専における教育改革が文部科学省、高専機構から高く評価された表れと考えられます。教務としても、新教育課程の円滑な実施に全面支援で対応する所存です。

教務関係の最大の課題の一つが留年・退学者数の増加です。平成25年度の留年者数は18名、退学者数は23名でした(計41名)。この数は、昨年度の数(留年36名、退学者29名、計65名)を大幅に下回る数でした、合計数でみる

と、平成18年以降、最も少ない数でした。学生諸君の努力に感謝すると同時に、休日も無く、学生諸君の補習や再評価試験を行ってくれた教員の懸命な学生支援があったことも、保護者の皆様にはお伝えしたい事柄でした。また、放課後開講している熱血ベテラン教員による数学学習支援に加え、中堅・若手の数学科教員による学習支援が始まったことも、不本意の留年・退学者減につながったものと考えられます。しかしながら、一クラスに相当する人数の留年・退学者が出ていることに変わりはありません。今年度も、昨年同様、放課後、様々な形で学習支援策を行います。積極的な利用をお願い致します。



## 新年度にあたって

校長補佐(学生主事)  
大久保 清 美

学生主事3年目になりました。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

さて学生主事の掌理事項は、一言でいえば学生の厚生補導に係ることですが、その中でも特に、登下校時や課外活動中の事故、メンタルヘルス、及び非違行為(いじめ・犯罪など)に対する「リスクマネジメント」に留意します。

登下校時の交通事故防止のために、平素から学生委員会を中心に地道な交通安全指導を繰り返し行っています。にもかかわらず、確かに前年度は原付で1件(ただし、プライベート)、自転車で1件ひき逃げ事故の被害に遭うなど不可抗力もありましたが、しかし学生本人の不注意に起因する交通事故も相変わらず起っています。学生の皆さんはくれぐれも、常日頃から安全運転を励行してください。

自転車の盗難防止のために昨年来、二重ロックを義務付けていますが、まだ徹底されていません。学生の皆さんは、指導される前に二重ロックを習慣化してください。

最近深刻ないじめは起っていませんが、SNS上で他人を誹謗中傷したり、無用な書き込みをする者が後を絶ち

ません。今後も総合情報センター等と協働し、情報モラル教育を繰返し行っていきます。

学生会関係ではこの間、4月のクラブ紹介や5月の学生総会及びスポーツ大会など、順調にスケジュールをこなしてきました。今年度は、「沼津市協働のまちづくり人材育成講座」や「高校生しゃべり場inぬまづ」など、沼津市主催の企画にも学生会本部役員が参加します。

課外活動関係では今年度、環境問題研究会及びかるた同好会(仮)が廃止、新聞同好会(仮)が継続、ESS同好会が再活動、アカペラ同好会(仮)が新設となりました。(仮)の付いている同好会は正規の同好会になれるよう、活動の充実を図ってください。なお今年度から、1～3年生については、高体連関係の試合に参加する際には染髪禁止とします。高校の生徒指導方針に準拠するためです。学生のみならず、保護者の皆様もご承知おきください。

高専体育大会(東海大会)については今年度、本校の担当競技は水泳、柔道、空手道、弓道、ラグビーとなります。関係各位のご協力をどうぞよろしくお願い致します。また来年度は、東海北陸地区高専ロボコン大会の主管校になります。もうすでにその準備を始めているところです。

国際交流関係では今年度、東海地区高専外国人留学生交流会(留学生スキー研修、乗鞍青少年交流の家)の世話校を務めます。こちらの方も関係各位のご協力をよろしくお願い致します。

くお願い致します。

今年度寮生554名(男子479名、女子75名)でスタートしました。内訳は第1学年214(37)名、第2学年152(23)名、第3学年96(10)名、第4学年62(5)名、第5学年30(0)名、留学生は6名です。(括弧内は女子人数で内数)。

寮務関係教員は総勢16名です。主事1名、寮監1名、主事補4名、委員10名で寮運営にあたります。今年度新しい寮監として笹原正和先生(静岡商業高校前校長)が着任されました。先生は県高野連前会長でもあり礼儀を



## 目標は「Clear」

校長補佐(寮務主事)  
遠 藤 良 樹

昨年度に引き続き寮務主事を併任いたします教養科(数学)の遠藤良樹です。5年目になります。微力ながら皆様のご協力、ご理解を得て務めてまいりますのでよろし



### 寮 祭

重んじた指導で規律正しい寮生活のさらなる向上に尽力されております。主事補は宮内先生（機械）、鈴木正樹先生（教養）、藤井先生（教養）、澤井先生（教養）にお願いしました。委員の先生方も含め今年度も棟顧問を務めていただき寮生指導を行います。

新たに影山寮務主任が教務係から配置換えになりました。他に3名の職員と1名の寮監補で寮運営をサポートしてまいります。

寮生会は今年度も素晴らしい働きをみせています。その寮生会の3役を紹介いたします。寮長は石川和磨君（E4）、副寮長は長谷部かれんさん（M4）、小林和紀君（C4）の2人です。3人とも前年度寮生会本部役員で安心して運営を任せられる逸材です。他に本部役員25名、計28名の意欲と能力がある学生が今年の寮の中核を形成

しております。

活動報告を簡単に致します。

4月：入寮式、開寮式、寮生総会、親睦会、防災訓練  
また活動予定（原稿執筆時点）は

5月：寮祭前夜祭、寮祭  
となっております。

また他高専との交流、長泉北中学校学習支援は引き続き今年度も実施する予定です。マテカ（上級生が下級生の勉強の面倒を見る）とともにこれからも続けていくことができたらと思います。

今年度寮生会の目標はClearです。いろいろな意味が込められております。この目標に向かって突き進んでいってもらえればと思っています。

どうぞよろしくお願い致します。



### 寮 祭



## 平成26年度専攻科入学生から始まる大きな変革

校長補佐（専攻科長）  
押 川 達 夫

平成26年度4月より専攻科長を拝命した押川です。前専攻科長・遠山教授と同様、専攻科へのご協力とご理解をお願い申し上げます。

沼津高専の教育改革として、平成24年度入学生より「本



教育研究支援センター

科の学際教育の導入」に始まり、さらにその本科教育改革の延長線に位置づけた専攻科の総合システム工学専攻（1専攻3コース制）が平成26年度の専攻科入学生から適用開始することとしました。専門コースは、「環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース」を設定し、将来の産業構造基盤となるこれらの3コースから輩出される人材の活躍が期待されることです。専攻科の教員組織体制も大きく改革し、専攻科に関わる種々の事案については、本科と同様に教員会議で議決を得ることとなりました。これら一連の教育プログラムの改編については、大学評価・学位授与機構の認定を受けるとともに日本技術者教育認定機構（JABEE）にも届出を行いました。

その一方、専攻科の学位授与制度が大きく変革することとなりました。これは、学位授与機構が全国の高専・短大に対して提示した新たな学位授与制度（円滑な学位の審査と授与）です。

現在は、本科卒業後、学位授与機構が認定した専攻科において所定の単位を修得した者で、学位授与機構における学修成果及び小論文試験の審査などを経て合格と判定された者に学士の学位が授与されていますが、第74回中央教育審議会答申（専攻科における学修の成果に基づいて円滑な学位の審査と授与が行われるよう、運用の改

善を図ることが望まれる)に基づき、学位授与の新たな審査方式(実質的な審査の対象を学生から在学する専攻科へ移行する方式)が設けられました。国立高専については、全ての高専がこの学位授与の新たな審査方式に移行する方針としており、本校においても5月に「特定適用専攻科認定申請」を学位授与機構に行い、年内に認定が受けられるよう準備を進めています。

この「特例適用専攻科」の認定を受けることにより、平成26年度専攻科入学生からは、学位授与機構の小論文試験などを受けることなく、一定の条件を満たすことに

より学士(工学)の学位が授与されることとなります。

以上のことから、今後の専攻科の教育レベル及び専攻科研究レベルは、確実に高くなっていくであろうと容易に判断できます。その結果、専攻科修了生の就職先や大学院への進学先が現在以上に向上するであろうと考えられます。最後に、私が校長補佐・学際教育担当時の高専だよりにも記載しましたが、学科を越えた専攻科研究があり得ることを示唆したところです。今年度それが実現したことは大変意味のあることと受け止めているところです。



## 平成26年度の機械工学科

機械工学科長

村松久巳

本年度より機械工学科長を担当します村松久巳です。1年生1組の副担任は永禮哲生教員、2年生の副担任は新富雅仁教員、3年生の担任は松田伸也教員、4年生の担任は三谷祐一朗教員、5年生の担任は西田友久教員です。保護者の皆様とともに学生の成長を支援していきますので、よろしくをお願いします。

3年生以上で特にお伝えしたいことはつぎの点です。3年生では、高学年に向けて学業に加えて諸活動を通じて、高専の生活を充実するように学級担任が指導しています。4年生は、自己の進路方針を検討する年になります。卒業生を招いての仕事の内容や企業活動の紹介の話、工場見学などを、担任を中心にして企画・立案しています。インターンシップは進路を検討するために貴重な機会となりますので、積極的に参加してください。一方、編入学を目指す場合には、大学のオープンキャンパスに出向くことや、大学の教員が来校して説明会を開催する機会を活用してください。5年生は進路を決める大切な時期を迎えています。編入学・進学希望に比べて、就職希望が多い状況です。社会の景気の動向を反映して、企業の求人活動が積極的であり、求人企業数が増加しています。志望理由、学生時代の活動、将来の希望や計画などを説明できるよう準備してください。一方、編入学・進学を希望する学生は入学試験が始まります。各大学等の入試に関するホームページには過去の入試問題が公開されています。自らの実力を試しかつ準備の状況を確認できると思います。学科長が各クラスに出向き、学生に上述の内容を話しました。自ら目標を決めて、継続して努力することが大切です。教員一同は各学年における目標が達成されることを願っています。

つぎに機械工学科に着任した、准教授 鈴木尚人先生を紹介します。先生は広島国際大学において医用生体工学と福祉工学の教育研究を行い、医療・福祉機器に関する

開発の経験と豊かな知識を有しています。機械工学科の新たな展開にご尽力いただけるものと期待しています。准教授 三谷祐一朗先生はオムロン株式会社での教員研修を終了し、機械工学科に戻りました。企業においては、PLCを用いた倒立振子の制御機材と3軸ロボットによるピック&プレイス機材の開発に取り組み、大きな成果を得ています。本年度は制御教育プロジェクトメンバーとして活動します。山中 仁先生と小林隆志先生が、平成25年度高専教育論文賞を受賞しました。論文題目は「既存の教材を応用したエンジニアリングデザイン教育の実践」です。昨年度、専攻科を卒業した山本 修君は、機械工学科の卒業研究を専攻科研究に継続して取り組み、その成果を学会の年次大会で講演し、日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞しました。研究を精力的に継続して、発表の準備を十分にした成果です。

機械工学科教員は活発な教育・研究を行い、学生の指導に取り組んでいきますので、どうぞよろしくをお願いします。



破壊力学実験室における研究風景





## 平成26年度を迎えて

電気電子工学科長  
佐藤 憲 史

電気電子工学科では、平成26年度、42名の新生入生、3年生に1名、4年生に1名の編入生を迎えました。現在、当学科では、1年生43名、2年生44名、3年生41名、4年生44名、5年生40名、計212名が在籍しています。また、新任の小村元憲准教授が加わり12名の教員体制となりました。

新学期が始まった4月に、新生入生への学科説明や上級生への学科ガイダンスを通して、学科の特徴と教育内容、心構え等をお話ししました。特に、「楽しみは後にとっておこう」ということを語りました。これはスコット・ペック著『愛と心理療法』を参考にした内容ですが、今やらなければいけないことから実行する、という意味です。後回しにすべきなのは楽しいことであり、どんなにつらいことでも行動に移す強い意志を持つことが大事です。それができれば学業成績など多くの問題を克服できると考えます。また、環境・エネルギー問題解決に直結する電力技術から様々なシステムで必須となるエレクトロニクスまでハード（物理）の基盤技術と、その土台となる電磁気学や回路の学習が基本となることを強調しました。

各学年で週1回学生実験がありますが、工学を実践的に学ぶ重要な機会ととらえています。現代的な装置を導入し、電子回路や電力に関する実験など豊富なテーマで実施しています。4年生の前期では、PBL（問題解決型学



### リニアモーターカーの研究

習)形式で実施しています。本年度は、新規の実験プラットフォーム（NI ELVIS）を用いて、電子回路で用いられるフィルターをテーマにスタートしています。また、4年生の学生有志を中心に、災害時などに活躍できる移動ロボットを作製する学科プロジェクトが始動しています。

就職や進学活動について近況をご報告します。当学科の5年生は40名おりますが、就職希望者18名、進学希望者22名と進学希望者がやや多くなっています。就職における求人状況は昨年より良好であり、これまで107社から採用担当者の訪問がありました。就職活動は進行中ですが、すでに8名の学生の内々定をいただいております（5月19日現在）。富士通、JR東海、中部電力といった大企業はじめ、有力企業に就職が決まっています。進学については、例年同様、すでに入学願書の提出が始まっています。昨年にも増して好結果を出すことを期待しています。

最後に、教育の改善と充実を目指して教員一同全力で取り組んでおりますので、保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



## D科クリエイティブ・ラボがオープン

電子制御工学科長  
遠山 和 之

平成26年度より電子制御工学科長を務める遠山です。よろしくお願いいたします。

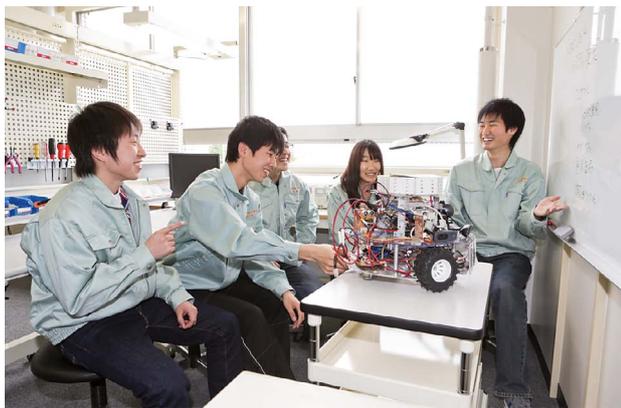
新生入生43名を迎え、本科生合計203名でスタートしています。担任（副担任）は順に1－5副担任が長澤先生、2年副担任が大沼先生、3年担任が川上先生、4年担任が大庭先生、5年担任が鄭先生です。昨年度末に舟田先生が再雇用期間を終えられ、江上先生が東京農業大学に移られ、新たに大林先生を助教に迎えています。大林先生の専門は、ロボティック・トレーニングシステムの研究です。ロボットが人と協調して、人の運動機能の向上や回復を促す研究ということで、大変魅力的な研究室になりそうです。



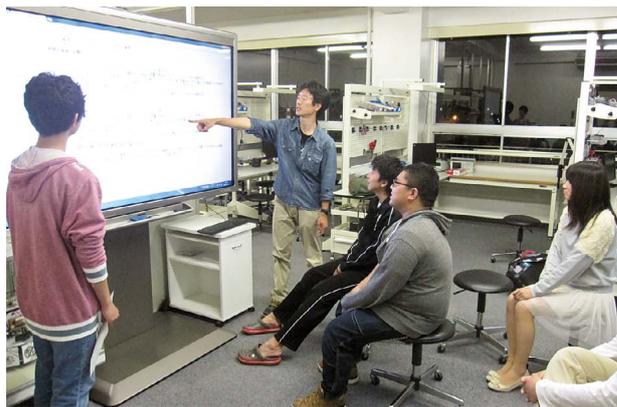
### MIRSロボット

今年度春にもう一つ魅力的な空間が生まれました。既に見学した方もいらっしゃるのではないかと思います。電子制御工学科棟1階の工作室を改修し、学生自らプロジェクト単位でモノづくりを実践する「D科クリエイティブ・ラボ」を整備しました。ラボ内は、「プロジェクトブース」、「ワークスペース」、「プレゼンテーションスペース」、「CAD/CAMゾーン」の4つのエリアから構成され

ています。「プロジェクトブース」は、チームで知恵を出し合い、様々なモノづくりのアイデアを形にする環境を提供する6つのプロジェクトブースになっています。「ワークスペース」は、共通で各種工作機械が設置されています。クリエイティブ・ラボの入り口の最も目立つ場所は「プレゼンテーションスペース」です。80インチ大型タッチディスプレイ、学生の作品を展示するためのショーケースがあります。「CAD/CAMゾーン」は、小型の3Dプリンタ3台や基板加工機2台が設置されています。4つのゾーンに分けたことで、以前の工作室よりもずっと明るく作業しやすい部屋になっています。ラボのレイアウト設計は、学科の若手教員（江上先生、大沼先



電子機械設計製作



クリエイティブ・ラボ

生、青木先生）によるもので、大変機能的な部屋に生まれ変わりました。4月18日(金)、電子・機械設計製作I（4年）の時間にオープニングセレモニーを盛大に開催し、スタートしました。この新しい環境で学生の創造性が遺憾なく発揮されればと思う次第です。

話は変わりますが、電子制御工学科の英文表記をこれまでの“Department of Digital Engineering”から和文表記に近い“Department of Electronic Control System Engineering”に変更しました。略称はこれまで通り「電子制御のD」を用います。

今後とも保護者の皆様方のご支援とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 目標(夢)を持つ大切さ

制御情報工学科長  
藤尾 三紀夫

前任の長谷教授から学科長を引き継ぎました藤尾です。これまで4年間、地域共同テクノセンター長として、沼津高専と企業との産学連携推進にたずさわり、外部の方と多く接して参りました。そして、卒業生が地元企業で活躍し、優秀であると多くの方から見聞きすることができました。このような中で、今年度からは地域に期待されている学生を育てる立場の学科代表となり、身の引き締まる思いです。

制御情報工学科では、3月に就職13名、進学26名の卒業生を送り出すことができました。また4月には1年生42名を迎え、平成26年度がスタートしました。学科の体制として、経験豊富で面倒見の良い先生方に担任を担当頂いています。就職担当には、企業での人事経験豊富でキャリア支援室長でもある長縄先生に、そして進学には学生の良き相談役である大久保先生に担当頂いています。併せて長谷教授と芹澤教授に尽力頂き、創造設計室やメカトロニクス演習室がリニューアルされ、更に良い設備で勉強できる環境が整いました。このように本年度は、

学生の育成につながる最適な体制と設備を構築できたと自負しております。

学科長の初めての仕事として、御殿場研修で制御情報工学科の1年生に講話をする機会がありました。学科概要や将来について、キラキラした目で最後までしっかり聞いてくれて感動すると同時にこの目が5年間続けば...と思わず願ってしまいました。一方で、留年や退学する学生がいる厳しい現実も話しました。原因は様々ですが、やはり「勉強しないこと」が最大の原因だと思います。中学時代は塾などで「これを覚えればいい」と言われて勉強すれば良い成績が取れたと思います。しかし高専では誰も言ってくれませんが、誰も教えてくれません。そのため授業を良く聴いて「自分でしっかり考えて、自分から積極的に動く」必要があります。高専の5年間は長いので、目標を持たないと途中で自分を失うことになりますので、できるだけ早く「目標(夢)をもってコツコツ努力して欲しい」とも話をしました。

これらのことは全ての学生にも共通することです。幸い、制御情報工学科には様々な分野での経験豊富で優秀な先生方がおられます。今年は学生に「目標を持たせる」ことを念頭に置いて学科運営を行います。そのためには我々だけでは難しく、保護者の皆様のお力添えが必須です。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



## 物質工学科 平成26年度にあたって

物質工学科長  
後藤孝信

今年度より学科長に就きました。どうぞ宜しくお願いいたします。新年度が始まり、初々しい新入生が入学してから3ヵ月が過ぎようとしています。新1年生は、中学校と異なる授業時間や寮生活にも少しずつ慣れてきたのではないかと思います。

今年度の物質工学科の学生現員は、1年生43名、2年生42名、3年生47名、4年生44名、5年生40名です。3年生と4年生には、留学生と編入学生が各学年に1名ずつ在籍しています。一方教員に関しましては、学際教育の本格的開講に伴う任期雇用教員として青山陽子先生を物質工学科のメンバーとして迎えることになりました。ご専門は“高分子化学と化学教育”です。前任地の旭川高専でのご経験を活かしつつ、本校の新たなカリキュラムの軸としてのご活躍を期待しております。また、今年度の物質工学科の総員は12名となりましたので、教育改革の真只中ではありますが、余裕を持って学生への教育と生活指導ができるものと考えております。

学科の教育内容につきましては、本年度から本科と専攻科で新カリキュラムが本格的に始動することになりました。教育内容の幅が広がるため、専門性の学力低下が懸念される場所ですが、物質工学科では、今日まで築いて来た教育内容を損なうことなく、学内の教育改革に合致する教育課程をこの数年掛けて準備して参りました。今後も教職員一丸となって教育内容の充実に取り組み、今までに引けを取らない就職先と進学先を確保したいと考えております。

学科の研究面では、各教員が大変積極的に地域企業との産学連携開発研究に取り組んでいます。これらの共同研究には卒業研究生（5年生）や専攻科生も参画しており、就職や進学に対するよいオンザジョブトレーニングとなっています。

進路につきましては、昨年度は就職者21名、そして進学者25名（うち11名が専攻科に進学）が学科を巣立っていきました。現在、就職、進学ともに全年度末から引き続き指導中であり、特に進学は6月以降に行われる専攻科および大学の入学・編入学試験に向けて、5年生担任の竹口教員と各研究室の指導教員が学生の準備を促しているところです。就職指導は前年度学科長の芳野教員により進められており、ほぼ例年と同様に順調なスタートを切っております。5月9日の時点で5名の内定者に至っていますが、ここ数年の採用のハードルは厳しく、残念ながら本年度も第一志望の企業の試験に落ちる学生が出ています。リーマンショックに端を発した厳しい就職状況（単に採用予定数を確保するのではなく、仕事に対する意欲と学力の両方を持つより優れた学生を厳選する）は、アベノミクスによる景気回復の兆候が見られる今年度においても続く予想されます。それ故、学生はこのような状況を認識し、(1)日頃の勉学に地道に勤しむ！ (2)勉学で理解できないことは放置しないで担当の先生を尋ねて教えてもらう！ (3)部活動は退部しないでチームワークを形成する意識を養う！ (4)ネットだけで情報を得るのではなく、新聞や書籍をきっちり読む！ (5)クラスの仲間同士で勉強を教え合う！ といったことを実行し、学力の向上に努めるとともに、将来の社会人としての自分の姿について普段から考えるようにして欲しいと思います。また、就職・進学に必要な高学年の専門科目の理解を深めるには、基礎学力の充実是不可欠です。ご家庭におかれましても、低学年の授業科目の学習を怠ることの無いようにお話ししていただきたくお願い申し上げます。

保護者の皆様へ：悩み多い年齢とは思いますが、お子様を励ましなが、時には厳しい態度で自立を促すようご指導をお願いいたたく存じます。私達、物質工学科教員一同も精一杯の力で学生を指導していきます。学生、保護者、教員のトライアングル関係を円滑に働かせることが、目標到達の最短コースであることは間違いありません。今後ともご支援とご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



## 一般科目の役割

教養科長  
勝山智男

西垣前教養科長が、5年の長きにわたり務めてこられた教養科長を、今年度から拝命いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

沼津高専では、一般科目（いわゆる教養科目）を担当

する教員の集団を教養科と呼んでいます。そもそも一般科目とは何でしょうか。一般に、大学などで学ぶ教養科目には2つの役割があると言われています。1つは、専門諸科目を学ぶための基礎となる知識や方法を身につけることです。沼津高専の場合、専門科目は工学です。たとえば、機械工学を学ぶには、基礎的な数学や物理学、それに化学などの知識や考え方が必須です。これらの科目は、情報工学を学ぶにも、電気工学を学ぶにも、化学工学を学ぶにも必要となります。このように、専門分野によらず、広く工学を学ぶために必要な基礎科目群が、一般科目の一つの柱です。そして、2つ目の役割は、将

来専門科目を集中的に学ぶようになって、ものの見方、考え方に偏りが生じないように、他の分野の知識でバランスをとることです。こうした、幅広い知識が裏付けとなって、豊かな人間性が形成されると言ってもいいでしょう。同時にこうした知識は困難に直面した時に問題を解決する能力を養います。この2つ目の役割は、専門の勉強に直接つながりそうもないので、学生からは軽視されがちですが、実は、本学の教育理念「人柄のよい優秀な技術者になって世の期待にこたえよ」の冒頭の部分を支える大切な事柄なのです。以上の2つに加えて、沼津高専の一般科目にはもう一つ大切な役割が加わりました。

本学では、複数の専門工学分野に亘る「学際科目」を重視した新教育課程がすでにスタートし、その学際教育を敷衍した専攻科の改編が平成26年度専攻科入学生より実施されています。こうした多様な学問領域を俯瞰する能力を養うことも、一般科目の（新たな）使命と言えるでしょう。

平成26年4月、教養科には、国語科の小村宏史准教授、寮監の笹原正和講師、数学科の黒澤恵光助教の3名が新たに加わり、全部で24名の教員が所属しています。新たな戦力を加え、教養科一同、沼津高専の教育にまい進してまいりたいと思います。

## 平成26年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成26年3月31日	待田 芳 徳	定年退職	教授（教養科）
	中園 孝 信	定年退職	准教授（教養科）
	福木 洋 一	定年退職	講師（教養科）
	江上 親 宏	辞職（東京農業大学へ転出）	講師（電子制御工学科）
	手塚 重 久	再雇用期間満了退職	特任教授（機械工学科）
	舟田 敏 雄	再雇用期間満了退職	特任教授（電子制御工学科）
	五条 寿 久	辞職（静岡大学へ転出）	総務課長
平成26年4月1日	鈴木 尚 人	准教授（機械工学科）に採用	
	小村 宏 史	准教授（教養科）に採用	
	小村 元 憲	准教授（電気電子工学科）に採用	
	青山 陽 子	准教授（物質工学科）に採用	
	笹原 正 和	講師（寮監・教養科）に採用	
	大林 千 尋	助教（電子制御工学科）に採用	
	黒澤 恵 光	助教（教養科）に採用	
	待田 芳 徳	嘱託教授に再雇用	教授（教養科）
	中園 孝 信	特任准教授（教養科）に再雇用	准教授（教養科）
	上原 正 宜	東京工業高等専門学校事務部長に配置換	事務部長
	大山 正 人	事務部長に配置換	米子工業高等専門学校事務部長
	露木 弘 充	総務課長に昇任	総務課課長補佐（総務担当）

平成26年度 校務分掌

平成26年4月1日 現在

校 長	柳 下 福 藏
副校長 (教務主事)	教 授 蓮 實 文 彦
校長補佐 (学生主事)	教 授 大久保 清 美
校長補佐 (寮務主事)	教 授 遠 藤 良 樹
校長補佐 (専攻科長)	教 授 押 川 達 夫
専攻科 環境エネルギー工学コース長	教 授 高 野 明 夫
専攻科 新機能材料工学コース長	准教授 稲 津 晃 司
専攻科 医療福祉機器開発工学コース長	教 授 藤 尾 三 紀 夫
機械工学科長	教 授 村 松 久 巳
電気電子工学科長	教 授 佐 藤 憲 史
電子制御工学科長	教 授 遠 山 和 之
制御情報工学科長	教 授 藤 尾 三 紀 夫
物質工学科長	教 授 後 藤 孝 信
教 養 科 長	教 授 勝 山 智 男
図 書 館 長	特任准教授 中 園 孝 信
総合情報センター長	教 授 望 月 孔 二 (副) 准教授 鈴 木 康 人
地域共同テクノセンター長	教 授 芳 野 恭 士 (副) 教 授 野 毛 悟 仁 (副) 准教授 新 富 雅 仁
教育研究支援センター長	教 授 小 林 隆 志 (副) 准教授 稲 津 晃 司 (副) 准教授 大 庭 勝 久

技 術 室 長	教 授 小 林 隆 志 技術長 鈴 木 猛
学生生活支援室長	教 授 小 林 美 学
キャリア支援室長	教 授 長 縄 一 智
国際交流室長	教 授 鈴 木 久 博
特別課程運営室長	教 授 蓮 實 文 彦 (副) 教 授 藤 尾 三 紀 夫
計測制御教育研究グループ長	教 授 長 谷 賢 治

教 務 主 事	教 授 蓮 實 文 彦
教 務 副 主 事	教 授 押 川 達 夫
教 務 主 事 補	准教授 井 上 聡 夫 教 授 高 野 明 弘 教 授 芹 澤 秀 寛 准教授 松 澤

学 生 主 事	教 授 大久保 清 美
学 生 副 主 事	〈欠 員〉
学 生 主 事 補	准教授 永 禮 哲 生 准教授 眞 鍋 保 彦 教 授 鄭 萬 溶 准教授 平 田 陽 一 郎

寮 務 主 事	教 授 遠 藤 良 樹
寮 務 副 主 事	〈欠 員〉
寮 務 主 事 補	准教授 宮 内 太 積 准教授 鈴 木 正 樹 准教授 藤 井 数 馬 准教授 澤 井 洋

教 科 主 任	
国 語	特任准教授 中 園 孝 信
社 会	准教授 佐 藤 崇 徳
数 学	准教授 佐 藤 志 保
物 理	教 授 住 吉 光 介
化 学	教 授 小 林 美 学
体 育	教 授 佐 藤 誠
英 語	教 授 鈴 木 久 博
ドイツ語	教 授 大久保 清 美

寮 監 及 び 寮 監 代 行	
寮 監	笹 原 正 和
寮 監 代 行	
前 期	火 宮 内 太 積 藤 井 数 馬 水 鈴 木 正 樹 澤 井 洋
後 期	火 藤 井 数 馬 澤 井 洋 水 宮 内 太 積 鈴 木 正 樹

事 務 部 長	大 山 正 人
総 務 課 長	
課 長 補 佐	露 木 弘 充 神 田 貴 由
課 長 補 佐	大 河 由 広
学 生 課 長	
課 長 補 佐	入 吉 修 室 伏 啓 二

学 級 担 任							
学年	クラス	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	学年代表
1		松 澤 寛	鈴 木 久 博	小 柳 敦 史	駒 佳 明	佐 藤 崇 徳	鈴 木 久 博
	副	永 禮 哲 生	吉 野 龍 太 郎	望 月 孔 二	古 川 一 実	長 澤 正 氏	
学年	学科	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	
2		中 園 孝 信	住 吉 光 介	澤 井 洋	成 田 智 子	佐 藤 志 保	住 吉 光 介
	副	新 富 雅 仁	江 間 敏	大 沼 巧	松 本 祐 子	山 田 祐 一 郎	
3		松 田 伸 也	大 澤 友 克	川 上 誠	鈴 木 康 人	稲 津 晃 司	鈴 木 康 人
4		三 谷 祐 一 朗	野 毛 悟	大 庭 勝 久	山 崎 悟 史	大 川 政 志	野 毛 悟
5		西 田 友 久	西 村 賢 治	鄭 萬 溶	大久保 進 也	竹 口 昌 之	西 田 友 久

## 平成26年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	顧 問 教 員 名 (☆は連絡責任者)					
陸上競技部	☆牛丸真司	松本祐子	鈴木尚人			
ソフトテニス部	☆平田陽一郎	佐藤崇徳	村上真理			
バレーボール部	☆大庭勝久	小林隆志	成田智子			
バスケットボール部	☆遠山和之	青山陽子	黒澤恵光			
野球部	☆中園孝信	住吉光介	宮下真信	横山直幸	小村宏史	
卓球部	☆稲津晃司	高野明夫				
柔道部	☆松澤寛	西垣誠一				
剣道部	☆澤井洋	鈴木久博				
サッカー部	☆望月孔二	駒佳明	山崎悟史	山之内 亘	長縄一智	
ラグビー部	☆井上聡	鄭萬溶				
体操部	☆佐藤誠	大久保進也				
水泳部	☆小林美学	新富雅仁	大澤友克			
合気道部	☆長谷賢治	山田祐一郎				
テニス部	☆竹口昌之	後藤孝信	西田友久	川上 誠		
スキー部	☆嶋直樹	鈴木正樹				
ハンドボール部	☆野毛悟	松田伸也	小柳敦史			
弓道部	☆芳野恭士	佐藤憲史				
空手道部	☆芹澤弘秀	宮内太積				
バドミントン部	☆押川達夫	藤尾三紀夫	大沼 巧			
トライアスロン部	☆三谷祐一朗	出川智啓	小村元憲			
吹奏楽部	☆藁科知之	永禮哲生	山根説子			
囲碁将棋部	☆勝山智男	江間 敏				
ロボコン部	☆青木悠祐	山中 仁	大林千尋			
学生会	平田陽一郎	大沼 巧	小柳敦史			
同好会(理工系)	☆村松久巳(機)	☆大川政志(天)	☆鈴木康人(プ)			
同好会(芸術系)	☆眞鍋保彦(合)	☆吉野龍太郎(軽)	☆西村賢治(大)	☆佐藤志保(茶)	☆藤井数馬(E)	

同好会(理工系) 機械工学・天文・プロコン

同好会(芸術系) 合唱・軽音楽・大道芸・茶道・ESS

## 平成26年度 学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー

氏 名	担 当	氏 名	担 当
杉山 賢一	内科医	山口 宜子	薬剤師
堰澤 敦	歯科医	宇治 友子	カウンセラー
藤山 航	精神科医	房 間 貞	カウンセラー

## 着任挨拶



### 社会に役立つ若い技術者の育成を目指して

機械工学科

鈴木 尚人

私は本年4月より機械工学科に着任致しました鈴木尚人と申します。沼津高専は本年度より専攻科に「医療福祉機器開発工学コース」が新設されています。私は医用生体工学や福祉工学を専門にしておりますので、私の専門分野が生かせる沼津高専で教育・研究を行える大変幸運な機会を頂きました。

さて、私は中央大学大学院の博士前期課程でロボットやセンサに関する研究を行いました。私は大学で専攻している精密機械工学が医療や福祉に応用されていることを東京大学の研究室のホームページで知り、東京大学大学院の博士課程に進学しました。そして、高齢者介護ロボットとそのヒューマンインターフェース等の研究を行いました。私は健常者にとって何でもないことが、高齢者の生活活動にとって大変重要な感覚があることが分かってきました。それは五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）です。私は五感の内一番重要な感覚が視覚であることがわかり、高齢者の視覚についての研究に興味を湧

きました。そして、眼科医療機器メーカーに勤め、医療診断機器の研究開発を行いました。失明する危険性の高い緑内障の早期発見を行うため眼底視野計や診断支援システムの開発を行いました。また、私はNEDO登録研究員として人工視覚システムや3次元眼底イメージングの研究を行いました。人工視覚システムは網膜色素変性症により全盲となった人に光を感知させる事を目指した研究です。3次元眼底イメージングは網膜の視細胞を観察することが出来る生体イメージング技術です。この技術は糖尿病の合併症の一つである糖尿病網膜症の診断支援技術として利用されています。

私は企業で研究を行うにつれて学術的な価値のある研究や教育を行いたいという思いが募り、広島国際大学の教員をしておりました。研究は3大失明原因疾患（緑内障、糖尿病網膜症、網膜色素変性症）の早期診断システムの開発です。これらの研究成果は欧州視覚・眼研究学会で毎年発表していました。また教育面では医用生体工学関連の講義及び演習を担当しておりました。

私は医療機器メーカーにおいて医療機器の開発、CAD設計等の経験があり、大学において高齢者福祉機器や医療診断機器の研究、医用生体工学関連の講義を担当しておりました。私のこれらの経験や知識が社会に役立つ若い技術者の育成に少しでもお役に立てれば無上の喜びで御座います。



### ネットワーク型人間に向けて

電気電子工学科

小村 元憲

本年4月1日付で電気電子工学科に准教授として着任いたしました小村元憲と申します。前職では東京工業大学資源化学研究所の助教を務め、同研究所には博士研究員職も含めて10年間務めておりました。多くの時間を研究活動に割き、研究活動とおした学生指導をおこなってきました。

沼津高専では、電気電子工学科に所属させて頂きながら、医療・福祉分野の学際科目も担当させて頂いております。社会の変化と共に、要求される人材が変化してくる中、沼津高専も変わろうとしております。その一つが学際教育への取り組みだと認識しております。様々な研究分野の橋渡しができ、それぞれの内容を理解し、総合して応用できる力が必要になってきています。社会に出てからも続けて鍛錬する力ではありますが、若いうち、特に学業に専念できる学生時代に学際的分野を学ぶことは、

幅広いことへ興味を向け、考える習慣を身に着けることに繋がります。「自分の専門分野以外も必ず理解し活用できる」という自信により、様々な分野へ垣根なく飛び込める身軽さをもって、技術革新を起こす人材になりうると考えます。

視野を広げることの意義はもちろん、得られる知識・技術を使うことですが、その為には使い方を身に付けていなければなりません。つまり、技術者の根幹として必要なことは、自分の専門分野を深く掘り下げることにより身に付く、技術者としての一連の基礎能力です。良く考え、よく行動するほど育つ根幹は、技術者の自信になるとともに、他分野についても掘り下げ、利用するための基本技術を備えることとなります。「T」字型人間が求められると言います。「T」の横棒が幅広さ、縦棒が専門分野を表しますが、更に「Π」字型に専門分野を増やすことが必要となってきます。

私自身、大学では物理工学を専攻し、その後10年間化学系の研究所で働き、現在、電気電子工学科に所属し、医療・福祉分野も関係させて頂いております。「Π」字型人間から更に、様々な分野を網目状に関連させ考えることができるネットワーク型人間を目指し、新しい分野を創出することが、研究者としての夢になります。沼津高

専の学生には、自分の専門的能力に自信を持ち、様々な分野に挑戦していく姿勢をもって、社会もしくは進学先

で大いに活躍できる人材になってもらえるよう指導していきたいと思えます。



## 着任して

電子制御工学科  
大林 千 尋

本年4月1日付で電子制御工学科に助教として着任しました大林千尋と申します。出身はくまモンが宣伝している熊本県です。熊本県は西に有明海、東に阿蘇山と雄大な自然に囲まれて、県内各所に温泉が湧いています。そんな実家の雰囲気と似た富士山と駿河湾に囲まれた自然にとっても恵まれた地に着任でき、大変喜ばしく思います。

さて、私は「ロボット開発がしたい」という思いのもと、熊本電波高専 電子制御工学科に入学し、大学院まで飽きずにロボット研究に従事しました。入学してすぐの頃は、漠然とロボットを開発したいという気持ちでしたが、ロボコンに参加するうちに「人の巧みな運動技能」に興味をわき、卒研や専攻科研究では、任意回数のひねり宙返りを実現するヒト型ロボットの物理シミュレーションと実機検証やドライビング動作のモデル化の研究を行いました。世間では人のように歩くロボットが人気になる頃、人の動きをロボットで実現することよりも、「ロ

ボットが人に運動技術を教える」方が面白いだろうと私は考え、そんなニッチな研究ができる大学院の研究室に所属しました。大学院では、映画やゲームで使われる光学式モーションキャプチャと筋肉を動かす指令電位を同時計測するシステムを用いて、ダーツ投げ動作を記録し運動のコツを調査しました。実験には熟練者や初心者は何十人も参加し、一人につき数十回運動を記録します。ビッグデータほどではありませんが多量のデータを基に筋骨格シミュレーションを行い、運動軌道や関節トルクといった物理量による運動の上手さを検討します。文章にすると簡単そうですが、これがまた一苦勞です。まず前例がなくノウハウがありません。被験者集めや日程管理も行い、当日の環境光、機器の状態、被験者の服装やコンディション（身体&精神的）と気を使わなければなりません。事前に何度も予備実験を行い、練度を向上させて本実験に挑みます。最終的に私はこの実験環境にロボットを統合し、運動のコツをロボットが人に教えるシステムを世界で初めて開発しその有効性を示しました。

高専で学んだ様々な技術や知識が基礎となり、私は誰もやったことのない実験を企画して遂行できたと思えます。この経験を踏まえて私は講義や学生実験・研究を通し、正しくはかる技術とともに「なぜその結果が得られるのか」や間違っている場合に「何が原因か」などの考える力を引き出す指導を心掛けたいと思えます。



## 「人間到る処青山有り」

物質工学科  
青山 陽 子

初めまして。この4月に沼津高専に着任した物質工学科の青山陽子です。高専教員は様々な経歴、地元以外の出身の方が多いのですが、私もその例外ではありません。私は、物心ついてから、母校である東京理科大学を卒業するまで、千葉の習志野市というところで育ちました。大学を卒業し就職した会社の研究所が御殿場市にあったため、実家を出て一人暮らしを始めました。御殿場では8年ほど勤務しましたが、もう一度勉強したいと思い、会社を辞めて渡米し、マサチューセッツ州立大学の大学院で高分子科学を学び、そこでPh.D. (博士号) を取りました。その後、縁あって旭川高専で採用され、日本の最北の高専で6年間、一般理数科の教員として学生達と忙しくも充実した時間を過ごしました。昨年は高専間人事交流で東京高専、そしてこの4月からは沼津高専に採用となり、また静岡に戻って来ることになりました。本来、

出不精で家が大好き、アウトドア派でもなく、旅行もあまりしない自分の性格を考えると、千葉→静岡（御殿場）→アメリカ→北海道→東京→静岡（沼津）と点々と住む場所が変わっているのが我ながら不思議です。「人間到る処青山有り」という月性の句が冗談でなく座右の銘になりつつあります。

なぜ高専で教えようと思ったのかとよく学生に聞かれます。その問いを、なぜ高専で、ということと、なぜ教えようと思ったのかという2つに分けてお答えしますと、前者に対しては、高専の大学とも高校とも違う独自の教育システムが面白いと思ったからです。学生と先生の距離が近いことも高専の魅力の1つだと思います。また日本の大学で、専門科目をこんなに丁寧に教えているところはありません。後者に関しては、化学や高分子科学という自分の専門を通じて、若い学生たちの夢をかなえる手助けができたと思ったからです。会社で働くことも、企業活動や経済を通して社会に貢献してはいるのですが、今度はより直接人と関わる仕事、そして他人の役に立つ仕事がしたいと思いました。

高専は、多感な10代後半から20代初めの学生が集まっている学校です。泣いたり笑ったり悩んだり、そして一生懸命努力することが評価される、そんな大切な時間を

共有できることを嬉しく、また光栄に思いますし、学生の皆さんがより良い人生を歩むために、私の経験や知識

が少しでも役立てばと心から願っています。



## 人柄のよい 優秀な技術者に

教養科

小村 宏史

本年度より教養科国語教員として着任いたしました、小村宏史と申します。縁に恵まれてこの伝統ある沼津高専に着任することになりましたこと、大変に誇らしく、また嬉しく感じている次第です。それと同時に、改めて思いを巡らせたこともあります。それは、自然科学系分野における技術者養成を旨とする高専教育の場において、国語教員の果たすべき役割とは何であろうか、という点についてです。

沼津高専の教育理念に、「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」とあります。私は、国語教育とはその「人柄」の部分を担当するものだと考えています。学生諸君は一人の例外もなく、いずれ社会の一員として活躍する存在です。どのような業種に属するにせよ、自己の心情を誠実に語り、相手の言わんとすることを曲解せず、正しく理解しようとする姿勢が求められるはずです。一片の報告書の中のひとつひとつの言葉に対しても、丁寧に記述し、懇切に解説するという態度、およびそれ

を公正に読み、理解しようという姿勢が、社会人としての信頼にもつながるのです。ネット上の掲示板やSNSで、心ない言葉が飛び交うことが問題視されている昨今ですが、そんな時代だからこそ、学生諸君には国語科の授業を通して誠実にテキストに向き合う中で、言葉の重みを理解し、成熟した「人柄」を身につけてほしいのです。そのためのサポートこそ国語教員たる私の役目だと考えています。

また、国語の学習は、学習者自身のものの見方、考え方をかたちづくっている「文化の源流」を知る機会としての意味も有しています。現在はグローバル化・異文化交流ということが盛んにいわれている時代です。異文化に対して公正な理解をおこなうためには、自らの属する共同体の文化に対する客観的な理解が必要となります。その共同体の文化と密接なかかわりをもつのが、言葉なのです。言葉は、同時代人同士の意思の疎通にのみ用いられるものではありません。古今の人間が意を通じ、文化を受けつぐなかだちとしての機能を有しています。言葉はその基盤となる文化を体現するものなのです。

確かなアイデンティティのもとで、自身と異なる価値観に対しても寛容に、誠実に向き合い、知識や技能を発揮する技術者——学生諸君がそうした人材として社会で活躍できるよう、尽力していく所存です。よろしくお願いたします。



## 驚いた『点呼』

教養科（寮監）

菅原 正和

4月より寮監を務めさせていただいている菅原です。出身は旧葦山町で、私が高校を受験するときには、高専受験生は、葦山高校を滑り止めに行っている優秀な生徒が集まり、入学すると、必ず寮に入らなければならない全寮制の学校だったと記憶しています。私は、この3月まで県立高校の教員をしていました。特に商業高校で指導してきましたが、農業・工業・商業などの専門学校は産業教育を学ぶ学校として、高専に近いものがあると思います。例えば、卒業後の進路は、5割前後が就職を希望しています。つまり、社会人になるための最後の学校です。社会人として通用する基本的な生活習慣、礼儀作法、マナー、規範意識、挨拶など、学力や知識とは別に大人としての常識を身につけなければなりません。高校ですと、校則を守り、担任や部活動顧問が自分の子供のように一からこまごまとした事まで指導し、教えてくれます。

しかし、皆さんは生徒ではなく学生です。指導されるレベルも、期待される自立も、果たすべき責任も高校生のそれとは違います。先生は教授と呼ばれ、指導方法も全然違います。高校の教員も教材研究はしますが、論文を書くための研究をしている先生は稀です。そのような環境で、高専における人間形成を行う場所として、寮が果たしている役割は非常に大きいと感じました。まだ2ヶ月弱ですが、挨拶や寮生会の運営には目を見張ります。自分たちで集団生活を快適に過ごすためのルールを決め、自分たちでチェックし、違反者には自治会としてペナルティーを科して自治を図っています。寮での生活を、自分たちで創造していけるのは、すごい力とそれを引き継いできた伝統だと思います。初めての宿直のときに、8時点呼、10時点呼、朝の7時点呼を経験しました。廊下に整然と並び、呼名されると大きな声で返事している姿は、体育会系部活動のそれを連想させます。その伝統の点呼を先輩から後輩へ引き継ぎながら、掃除の仕方から高専での勉強、過ごし方まで引き継がれているのではないのでしょうか。そして、上級生達も指導し、模範を示すことによって成長しています。私は前任者から引継ぎのとき、「分からないことがあったら、学生に聞いて。」と、言われました。そんなに凄いいリーダーシップと責任

感を持った学生が、代々引き継がれていく学生寮の凄さに驚いています。沼津高専寮生会の素晴らしい伝統が、

継承されることを期待しています。



## 自己紹介

教養科

黒澤 恵光

本年4月1日付けで教養科に助教として着任致しました黒澤恵光と申します。担当する教科は数学です。出身は茨城県の下妻市という所です。

私は高校生の頃に数学に興味を持ち、大学では数学を本格的に学びたいと思い、筑波大学に入学しました。このときに出会った何人かの素晴らしい先生方の講義により、よりいっそう数学が好きになり、数学の研究者になりたいと思うようになりました。講義を受けた先生方の中で、とても温かみがあり、人柄がとてもよいと感じられたある先生に指導教官になって頂き、その先生の指導の下で博士論文を書くことができました。

私の研究テーマは概均質ベクトル空間の分類問題です。概均質ベクトル空間の理論はある高名な日本人数学者によって創られました。どういう理論かと言いますと、すごく大ざっぱに言えば、概均質ベクトル空間が1つあれば、それから数学的に面白い関数を作ることができるというものです。概均質ベクトル空間の分類問題は、まだまだわからないことだらけです。これからも研究してい

きたいです。

また、私は大学院の博士後期課程1年目から4年間、高校で数学の非常勤講師をしていました。数学を教えることの難しさを痛感しながらも、数学を教えることを通じて生徒と触れ合う楽しさを知った4年間でした。特に、数学が苦手な生徒から「先生、わかったよ!」と言ってもらったときが一番嬉しかったです。この経験を活かして、沼津高専の学生の皆様に、わかりやすく、数学を面白いと感じてくれるような授業ができるように、日々、努力していきたいです。

また、私は、大学時代に、オーケストラでトランペットを吹いていました。音楽を作っていくという行為を通して、多くの仲間と苦楽を共にできたことは、かけがえない貴重な経験であり、私の心の支えになっています。学生生活において、もちろん勉強することは大切ですが、クラブ活動などで汗を流すのも必要だと思います。私は、今年、バスケットボール部の顧問をすることになりました。バスケットボールはあまりやったことがありませんが、学生が自主的にクラブ活動ができるためのサポートをしていきたいです。また、今年は寮務委員の仕事もありますので、そちらの方でも学生をサポートできるようにしていきたいです。

まだまだ未熟者ですが、みなさんのお力をお借りして頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。



## 将来の技術者等への期待

事務部長

大山 正人

本年4月1日付け、米子高専から配置換えとなりました事務部長の大山でございます。どうぞよろしくお願いたします。前任地は鳥取県にあります米子高専の事務部長として勤務しておりました。前任地では伯耆富士といわれる大山が優美な姿をみせ、近くにはたくさんの温泉や風光明媚な景勝地がある自然豊かな中に高専がありました。沼津高専も近隣にはたくさんの温泉と風光明媚な景勝地など美しい自然環境の中にあり前任地と同様な点がありますが、その中でも、今まであまり意識して見たことのなかった富士山がこんなに近くで、その存在があらためて雄大な姿であることに感動しました。また、沼津高専へ着任しまして感じたことは、前任地とは異なり静岡県にはたくさんの企業が集積しており、首都圏にも近いという利点があるということです。このような立

地条件に恵まれた高専は前任地をはじめ全国の国立高専の中でもあまり見受けられないのではないのでしょうか。このような周辺環境の中で働かせていただけることに感謝申し上げたいと思っております。ここで少し国立高専が法人化されて今年度で11年目、第3期中期目標・計画期間がスタートした年度にあたりますので、国立高専機構の計画等の一部について触れさせていただきたいと思っております。同計画等の中で産業構造の変化や少子化等を踏まえ、専門性や実践性などを重視しつつもグローバルな視点を持った人材養成などが必要であるとされています。高専教育では既に多くの実験・実習のカリキュラムが組まれた実践的な技術者教育が行われ、技術者としての様々な課題解決能力を養う教育が行われおりましたが、沼津高専では、3学年以上の高学年においては学際教育が取り入れられ、専攻科は融合複合教育が開始されると聞き、先駆的な取組に感心している次第です。これは個人的な見解ですが、沼津高専の学生の皆さんにおかれては、世界や国内でナンバー1に目を向けるだけでなくオンリー1を目指した技術者等にもなっていただきたいと思っており、将来の日本を支える多くの女性技術者等が誕生されることも願っている次第です。これから学生の皆さんにどのようなお

手伝いができるかわかりませんが、少なくとも学生の皆さんには勉学に集中できるような環境を整えることや様々

な学生サービス等の充実に微力ながら寄与していければと思っております。

## 新入生から (入学にあたり)

### 高専に向けての全力という行為

1年1組 (電気電子工学科) 岩倉 一真

自分だけの特別なロボットを作りたい。父親から高専のことを教えてもらい、そう思った僕は、その夢を果たすために高専を目指しました。自分の持つ夢を叶えるために、頑張って勉強した結果、今、無事この高専にいる僕ですが、思えば最初はただ漠然とそのことを思っただけでした。

中学1、2年のときには、高専のことを聞かされただけで、作りたいけど、行ってもきっと意味はないとさえ思っていました。しかし、中学3年になって、漠然と過ごしていたらだめだと思い、どうしようかと思ったときに、ふと思ったことがありました。自分だけのものが作りたい。それもコンピュータ系統で。そのためには何をすればいいのか。そう考えた時、自分の力はあまりないけど、でも行ってみようと思って高専を目指しました。しかし、最初はあまり心が固まっておらず、夏までただ漠然と過ごしてしまいました。

そんなとき、中学の担任の先生や両親に、「お前はどうかするんだ」と言われて、ハッとしました。そこから、態



入学式宣誓

度もきちんとするようにして、授業には集中するようにしました。提出物も忘れないようにしました。もともと飽きやすいために、最初は止めたくりましたが、高専に行く、という一つの目的を達成するために、頑張りました。今思い出すと、何であんなに頑張れたのか、疑問でしたが、でもよく考えてみると、ひとつの目標を達成する、そのことに対して人は、いくつかの感情や思考を持った上で、それが正しいということは無意識に感じ取った時点で、行動を全力で行えるのだらうな、と思いました。

その全力への道しるべを立ててくれた中学の担任や両親に感謝しつつ、高専でもがんばりたいと思います。

### 高専入学後の抱負と目標

1年2組 (電気電子工学科) 林 茂樹

私の高専に入学しての目標は「文武両道」です。

私は小さいころからプラモデルや電気工作などの「もの」を作ることが好きでした。しかし、中学生になると、ただ部品を組み立てるだけでなく、電気回路の仕組みや設計を学び、自分で作れるようになりたいと思うようになり、理科の電気分野と技術科を特に頑張りました。

将来は自分の好きな電機分野で活躍する技術者になりたいと思っています。高専の勉強は、難しく、赤点の基準も厳しいので、大変だと思います。ですが専門科目などを、しっかり勉強し、苦手な分野の勉強でも少しでも苦手をなくし、得意になれるようにしたいです。

また、ここ沼津高専には寮があります。部活が終わってから、寮に戻って来てからは、お風呂と食事を済ませなければなりません。また、夜は掃除や洗濯をしなければならず、勉強する時間は正直多くはありません。です

が、限られた時間の中でも集中して勉強することで補えると思います。

寮生活は楽しくもあり、厳しくもありますが、上級生や友人たちとの新しい生活に早く慣れ、部活に勉強、「文武両道」を目指していきたいです。

大変なこと、苦手なことにも積極的に取り組み、一人前の技術者として、社会に貢献できるよう、一歩ずつ、確実に目標に近づいていきたいです。



新入生合宿研修・学生主事より説明

## これからに向けて

1年3組（機械工学科） 寺 嶋 茜

私は、明確な夢を持って沼津高専に入学してきました。「エンジニアになって、大手車メーカーに就職する」この夢は小学4年生の時から揺らぐことなく心に持ち続けています。

私は、他県からやってきました。私の地元では、高専の知名度、そして入学率が低いです。だから私は沼津高専について深く知らない状態で入学してきました。しかし、いざ入学してみると、思った以上に良いところでした。目標が似た人たちが集まった環境なので、お互いを高めあうことが出来ると思います。また自治寮なので、人と関わり、協力することが出来るようになったり、周囲のことも考えて行動するようになったり、ルールやマナー、モラルも身につけ、自律した生活が自然とできるようになったりすると思います。実際、今までの自分にはできていなかったこともできるようになってきたと感



新入生合宿研修・ドッチボール表彰

じます。24時間、家族ではない人と生活するという経験は貴重なものです。寮生活を頑張ることによって夢の実現に近づくと感じます。一番頑張るべきことは、「勉強」です。しっかりと予習、復習をすること、毎日コツコツ勉強すること、しっかり理解す



新入生合宿研修・クラス別研修

ることの3つを頑張りたいです。勉強は自然にできるようになるのではなく、努力次第だと思います。忙しい日々の中でも、自分が努力すれば夢は叶うと思います。だから、分からないところも友達や先生に聞き、必ず出来るようにしたいです。重視する科目は、学科別の科目と英語です。どちらも将来必ず必要だと思うので、特に予習、復習を頑張って自分の物にしたいです。

まだ、学校生活や寮生活に慣れ、完全に身についた訳ではありません。これからも初心を忘れずに頑張りたいです。夢の実現のために努力します。いい技術者になりたいです。振り返った時に、充実していたと思える5年にしたいです。



新入生合宿研修・食堂

## 卒業生から



### 課題解決エンジン

制御情報工学科5期  
藤 門 千 明

私は制御情報工学科を卒業後、筑波大学に編入・修士課程を修了し、ヤフー株式会社に勤めています。現在はクレジットカード決済、Tポイント、FXといった決済金

融事業や、Yahoo! JAPAN ID、クラウドストレージといったヤフーを支えるプラットフォーム基盤の技術責任者として、「課題解決エンジン」であり続けるというミッションの元、インターネットユーザーの課題解決に取り組んでいます。

5年間の高専生活の中で一番役に立っていることは、卒業研究や演習などを通じて、未知な課題に対しても「自分の力で学び」「自分の頭で考える」ことで解決していくトレーニングができたことです。高専で学習した基礎科目や専門科目が直接役に立っているかと言うと、必ずし

もそうとは言えません。私たちが解決すべき課題はどんどん難しくなっていく、知識だけでは太刀打ちできないからです。それでも、自分の力で学び自分の頭で考える癖があれば、難しいことにもチャレンジすることができると信じています。

実際みなさんもご存知の通り、インターネット業界は変化のスピードが早く、新しいテクノロジーやライバルとなるサービスが毎日のように生まれる業界ではありますが、その度に高専で得たことや経験をフルに活用し、一步一步乗り越えて頑張っております。

高専時代を思い返すと、いつも学生会や寮生会の活動

を思い出します。私自身、4年生で学生会では副会長、寮生会では副寮長をやらせてもらいました。振り返るとかなり恥ずかしい事や危なっかしいことをした記憶がよみがえります。それを暖かく見守ってくれた教職員の方々や家族には本当に感謝しきれません。

最後になりますが、どうか高専生活の5年間に有意義に過ごしてください。そしていつかみなさんと一緒に世界中のたくさんの課題を解決し人々を幸せにする「課題解決エンジン」同士として一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

## 自分と向き合い、人と向き合う

物質工学科38期・専攻科A13期

蔭山夏美

高専生の皆様、はじめまして。蔭山夏美と申します。私は、物質工学科を卒業後、平成22年に応用物質工学専攻科を修了した卒業生です。現在は、「京セラメディカル(株)」という医療機器メーカーで新製品の工程開発業務を担当しています。

私は日々の業務の中で、常に「自分と向き合い、人と向き合う」ことを大切にしています。なぜかというところ、社会人になり「コミュニケーション」に一番苦労したからです。どんなに熱い思いがあっても製品を一人で造りあげることはできません。年齢も出身も過ごしてきた環境も全く異なる様々な考え方の人と協力して一つの製品を造り上げることは想像以上に難しく、やりがいのあることです。そこで、社会の中で自分自身の力を最大限に発揮できるよう、異なる考え方を受け入れ、「問題と向き合う」力を身につけて欲しいと感じています。そのためには、まず「自分と向き合い」自分の存在や目的を認識し自信を持つこと、そして「人と向き合い」様々な人の考え方を認めることが大切です。

さて、皆さん高専生活はいかがですか？進路に不安を抱えている人。部活に励む人。恋をしている人。周りとうまくいかず悩んでいる人…。一人一人が日々「様々な」想いを胸に抱えていることと思います。

もし今、悩んでいる人がいたら、あなたはいずれ世の中を切り拓く創造的な人になります。人は悩んだときほど考えます。どうやったらこの状況を抜け出せるか？と考える過程に多くの学びや発見が転がっています。「悩み」はあなたが今後生きていくうえで「強み」に変わるでしょう。

もし今、幸せいっぱいの人いたら、それは幸せを感じる素晴らしい能力です。ぜひその幸せを優しさに変えて周りの人にわけて下さい。あなたは、周りに「元気」や「笑顔」を生み出す素敵なパワーを持っています。

最後になりますが、あなたを動かしているのはあなた自身です。失敗してもいい。人より上手くできないことがあってもいい。今あなたが居るのは世の中のほんの一部の世界です。世の中には様々な世界があります。自分の限られた世界で悩み続けるのではなく、悩んだ時ほど広い世界に目を向けて下さい。誰も問題に直面した時にその問題と向き合い解決する力を持っています。みなさんがその力に気づき、充実した人生を送ることが、より良い社会の構築に繋がると信じています。心から応援しています。

## 留学生から

### 日本に留学するマレーシア人

機械工学科3年 モハマト ライス ビン イスマイル

みなさんこんにちは、わたしはマレーシアから来た留学生です。モハマト ライス ビン イスマイルと申します。ライスと呼ばれています。わたしはマレー系でイスラム教徒です。現在、機械工学科3年に在籍して勉強しています。

まず、少しマレーシアの紹介をしたいと思います。マレーシアは、東南アジアのマレー半島南部とボルネオ島北部を領域とする連邦立憲君主制国家で、イギリス連邦加盟国です。タイ、インドネシア、ブルネイと陸上の国境線で接しており、シンガポール、フィリピンと海を隔てて近接しています。マレーシアは多民族の国で三大民族はマレー系、中国系とインド系です。民族によってそれぞれお祭りをするので、一年にたくさん祭りを行います。食べ物も民族によっていろいろあります。旅行したい方にはマレーシアはお勧めです。

私はマレーシアの高等学校を卒業してからInternational Education College (国際教育カレッジ) に入学しました。1年生の時、初教の日本語のほかに化学、物理、数学の基礎も習いました。日本語以外の科目は全部英語で学びました。2年生になると全部の科目は日本語で習いました。それから、2014年1月に文部科学省試験に合格して日本に留学しました。

4月4日に日本に来ました。はじめての海外なので、とても嬉しかったです。成田空港から電車で東京駅に行き、そこから私は1人で三島駅行きの新幹線こだまに乗りました。友達と離れるからとても心配しました。しかし、沼津高専に着いてから先輩たちと学生課の室伏さんに温かく迎えていただきました。

日本に来てから1か月が経ちました。いろいろな経験をしました。沼津高専の学校はほんとうにいい学校だと思います。私は来たばかりで日本語の能力が低いので、

はじめは授業の内容は全然わからなかったです。しかし、少しずつわかってきました。それから友達がたくさんできました。友達がとてもおもしろくて、やさしくて本当にいいことだと思います。先生方も親切で熱心に教えてくれます。お話は時々わかり辛いこともありますが時間とともにどんどんわかるようになり、少しずつ慣れてきました。

沼津高専寮の収容設備はすごいと思いました。学校の生活は少しずつ慣れてきましたが寮の生活はまだ十分慣れていません。日本の寮のルールと習慣に慣れることは長い時間かかるとは思いますが、これから頑張っていきたいと思います。

最後に私は沼津高専に来れたことが本当に嬉しいです。困ることがありますが、頑張りたいと思います。みなさん、よろしくをお願いします。

## ラオスから来ました。

### 物質工学科3年 プアロン チア シア リー

初めまして、私は物質工学科3年生のノンです。ラオスから来ました。ラオスは東南アジアの国で、日本と違い海がない国です。ラオスから日本まで飛行機で約7時間がかかります。インドシナ半島で、ラオスは一番人口が少ない国です。650万人くらいいます。ラオス人の95%は仏教徒です。ラオスにはラオス語があります。ラオス語はタイ語にとっても似ているので、ラオス人とタイ人の間では、自分の国の言語で話し合っても、通じます。ラオスは火山と地震がなく、平和な国です。ラオスは日本と比べると、物価が安く、ラオスは日本の4倍くらい安いです。

私の家はラオスの北側にありますが、中学校を卒業したら、私はラオスの首都にあるSGESという公立学校に入りました。家族と初めて離れるようになりました。その学校で高校生として4年間を勉強しました。この学校にいる先輩たちは外国の奨学金をもらって、留学している人が多くいました。私は先輩たちを見て、外国で勉強するのは素晴らしいなーと思いました。自分も行きたい気持ちを感じました。だから、日本へ留学することを目的として勉強するようになりました。高校の3年生と4年生の時は科学の科目と先輩からもらった日本の奨学金の過去問を一生懸命練習してやりました。そして私が日本の奨学金を受けることができるようになりました。本当にうれしかったです。

2013年4月2日に私と12人のラオスの学生と一緒に日本へ来ました。最初、日本に来たときは全然日本語が分かりませんでした。大変に心配でした。しかし、1年間東京にある東京日本語教育センターという日本語学校で

日本語を勉強しました。先生の方は日本語を優しく教えてくれて、だんだん日本語が分かるようになりました。これからも日本語を頑張ろうと思います。

沼津高専へ来たのは今年の3月25日です。東京にいる時インドネシアの先輩に会いました。先輩によると沼津高専の寮はとても厳しいそうです。しかし、寮に入ったら、その厳しさがだんだん慣れるようになりました。安全のためや自分の目的のためにその厳しさは私にとって本当に大切なことだと思います。今の授業はまだ分からないことがあります。例えば、言葉や漢字などです。でも、私のクラスメイトはみんなが優しい人です。分からないことがあったら、すぐクラスの友達に聞いたら教えてくれました。こんなクラスに入れて良かったと思います。

最後に、私にとって日本に留学できたことは楽しくていいチャンスです。だから、将来私は高専を卒業後、大学に進学して、日本の会社で働きたいと思います。よろしくをお願いします。



C3生物化学実験

## 寮生会活動について

### 沼津高専学生寮の現状

電気電子工学科4年 寮長 石川 和 磨

こんにちは。沼津高専学生寮寮生会寮長の電気電子工学科4年の石川です。学生寮には約550名の寮生が生活しています。本校の学生寮は、寮生のみで組織された寮生会が運営している自治寮です。この自治が沼津高専学生寮と他高専の学生寮と大きな違いであり、本校の学生寮が「日本一の寮」と言われる理由です。

本校の学生寮は単なる生活寮ではなく、本校の教育理念にもある「人柄の良い優秀な技術者」になるための教育寮として存在しています。寮では人柄を特に重んじているため、礼儀・マナーについての生活指導を頻繁に行っています。

ここで、少し厳しい話をさせていただきます。寮生活で規則を破ると不祥事になります。最近、この不祥事の内容が大変悪質なものが残念ながら増えているように感じます。また、不祥事にはならないものの、常識的に考えればできて当たり前ことができな、私たち程度の年齢で身につけておくべき礼儀やマナーが身につけていないなど、寮生同士の指導のみでは対応しきれない事例があります。

このようなことを踏まえると、寮生会は大きな決断を

しなければならぬと考えています。今までは、自治寮に重きを置き教員からの指導や助言は必要最低限にしていただきました。しかし、教員からの指導を積極的に受け入れなければならない状況ならば自治寮にこだわる必要は無くなってくるのではないのでしょうか。自治寮にこだわることで、指導が十分にできないのは教育理念を達成することができず、まさに本末転倒だと思います。自治寮が成り立たなくなる。これは沼津高専学生寮の伝統を壊すことです。沼津高専学生寮の伝統を守るのか。それとも壊すのか。近いうちに必ず決断しなければならないと思います。

私個人の考えは、当然ですが沼津高専学生寮の伝統を守るべきだと思います。しかし、現状のままでは寮生自身に身を削る覚悟がなく伝統は守れません。私は寮長として寮生会会則の改正や寮生会役員の解職制度について提案し、多くの寮生と検討しています。これは沼津高専学生寮が築き上げてきた伝統を守り、さらには現状に合った自治寮をつくるための身を削るものになると考えています。

ここまで、沼津高専学生寮の現状について述べさせていただきました。保護者の方々の支えがない限り自治寮はもとより、単純な寮生活を送ることさえもできません。至らぬ点が多い寮生会ですがこれからもご支援のほどよろしく申し上げます。

## 私 の 高 専 時 代



### 成長を実感できた5年間

機械工学科20期  
芹澤 弘 秀

今から33年前の春、技術者を夢見た私は機械工学科(M科)に入学した。M科が2クラス、電気工学科(現E科)と工業化学科(現C科)が1クラスの時代である。趣味の電子工作や公害問題への関心からE科やC科でも良かったが、特にロボットへの憧れからM科を選んだ。入学と同時に始まった寮生活は戸惑いの連続だった。消灯時刻を1秒でも過ぎれば上級生寮から怒鳴り声が響く。挨拶や規則の順守は徹底的に指導され、1室4名の誰かが犯したミスは消灯後の正座として連帯責任を体に叩き込まれた。本気で叱ってくれた寮役員の先輩は皆厳しくも思いやりがあり、憧れの存在だった。家を離れて特に気づ

いたのが家族の愛情である。照れ臭かったが母親に感謝の気持ちを伝える手紙も書いた。

授業内容は大学受験が目的の高校とは一線を画しており、専門科目では低学年から大学の教科書が使われた。製図や工作実習、機械要素系授業の集大成である3年の総合実習「歯車減速機的设计製作」は大変実践的で、チームで歯車、軸、筐体を設計・加工して減速機を組み立てる内容であり、減速機が動いた時の感動は今でも忘れない。相転移を扱う金属材料、微積分の応用である三力(材料力学、流体力学、熱力学)等、機械の主要科目の勉強にも熱中し、特に材力は何度も教科書を読み返した。無駄のない5年間一貫教育のおかげで機械の基礎を一通り学び終え、卒業後は電気(光、計算機も含む)を学ぶべく大学に編入学した。機械と電気の2分野を修得できたのも高専を選んだからに他ならない。

さて、高専入学時に決心したことがあった。苦手としていた「歴史」の克服である。幸い2年の歴史の先生は現場を垣間見たかのような語り口で、自ずと授業に引き

込まれた。静粛時間だけでなく早朝や部活前の細切れの時間も活用して清書用ノートにまとめた。夢中になりすぎて図書館の誰も読まないような分厚い歴史辞典にも手を伸ばした。そこには教科書には書かれていない話が満載で、益々歴史にのめり込み、苦手科目が数か月で大好きな科目となって成績も急上昇した。この体験により時間をかけ本気で取り組めば何事も克服できるのだという自信を得た。

高専ならではの同級生や先輩・後輩との出会いもあった。部活に行く途中、まだ習っていない $\lim_{n \rightarrow \infty} (1+n^{-1})^n$ について熱く語りだした1年の友人は数学セミナーの愛読者である。私は2年の時、レーザーに関する専門書を購入して自主的に勉強、E科の後輩とも論議した。3年ではM5の先輩が卒研でグラフィック(CG)を研究していることを知り、私もCG用変換公式を求めて3次元図形を描くプログラムを作成した(その先輩は東大に編入し

てCGの本を出版、卒業後はパイロットになったというから凄い)。個人用PCが出始めた時代、電算機センターには情報技術に長けた人が集まり、円周率の数値計算に挑戦する人もいた。高専祭では学科の威信をかけた展示が行われ、E科の部屋全体のLEDプラネタリウムやM科の運動場を疾走するホバークラフトの光景は今でも目に焼き付いている。当然、私も5年時には人が乗れるホバークラフトを仲間と共に製作し、運動場を走り回った。趣味のバイクいじりも相まって本当に充実した5年間を過ごせたと感じる。

本稿の執筆を通し、5年間で確実に成長させてくれる素晴らしい環境が高専にはあるのだということを再認識した。後輩たちには高校とは違う高専の良いところを見極め、何事にも興味を持って積極的に取り組んでほしいと願う。

## 教育後援会から

### 会長就任のご挨拶

教育後援会会長 鈴木一洋

今年度、教育後援会会長に就任いたしました鈴木一洋でございます。保護者の皆様の代表として、精一杯務めさせていただき所存でございます。

さて、教育後援会は、会則に記されていますように、沼津高専の教育の発展に寄与し、併せて学校と会員の緊密化を図ることを目的として、教育発展に必要な諸施設並びに運営の助成、学生の課外活動の助成、研究研修に関する助成などの事業を行っております。これらの事業は、私たち保護者が高専教育の理念や目的に賛同した上で、学校側と協力しながら学生たちの育成に際しての最善の対策を考え、遂行していく必要があります。

ご父兄に於かれましても、子供たちは寮生活など生活環境が一挙に変化し、ご心配のこととは思いますが。しかし、この共同生活を通して、相手の立場に立ってみる、また多くの人の助けを受けて自分の生活が成り立っていることを認識していくと思います。加えて、教職員の方々が学生一人ひとりに対し、濃やかに指導され、より良い人間形成を主眼にしようと考えられていることが随所に見受けられます。

また、学校の方針を見ましても、敏速に社会のニーズの変化に対応すべく、学際教育などを取り入れ、創造的かつ実践的な技術者育成を実現すべく努力されていると思います。

長期低迷を続けてきた日本経済も、徐々に明るさを取

り戻しつつあるとされておりますが、反面、世界市場における東アジアを中心とした海外への企業進出、国内生産拠点の海外移転による産業の空洞化が指摘され、雇用情勢の不安もあります。しかし、この静岡県東部において沼津高専が中核となり、県のファルマバレープロジェクトなどが進むと、新産業創生の動きも確実に現れております。

子供たちが、この学舎の社会と密接にかかわる実践的な教育理念を吸収していき、日本の産業発展に貢献していくものと確信しております。

これから一年間、役員一同、学校側と協力してより良い環境が整えられますよう運営してまいりたいと思いますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げて、私の挨拶に代えさせていただきます。



## 入学に際して保護者から

### 仲間と共に充実した高専ライフを

新生保護者（1年4組） 加藤 真一郎

「高専受験者って1人なの？」これは息子の希望進路最終決定後、私が妻にかけた言葉の1つです。中学校は学年7クラスの比較的大きな学校だったので、希望者が1人というのは意外でした。本人の適性を考えると、高専に向いていると思っていましたし、息子もその気になっていたのです。だからどうこうということはありません。しかし、いつも近くに仲良しの友達がいいた15歳の子供が、親元を離れて新しい環境で生活をしていくのにあたり、地元の仲間が1人もいないという状況が、長い人生にマイナスにならないだろうかと一瞬頭をよぎりました。

その後、高専に合格することができ、寮生活が始まりました。1週間後、用事があり日帰りで家に戻ってきた息子に、「寮生活はどう？相方とはうまくやれている？」と尋ねると、「うん、楽しい。相方とも大丈夫だよ。」という言葉がすっと返ってきたので、とても安心しました。

### 仲間

新生保護者（1年5組） 海野 正高

高専入学式の当日の朝、私は子供の荷物を車に積むために家の玄関を開け駐車場に置いてある車に向かった時、人影らしきものを感じました。早朝なので誰かが犬の散歩で通ったと思い気にせず車のドアを開け荷物を積んでいると道路の方から数人の声がしたので気になり道路に出てみると、31H（中学3年時のクラス）のクラスメイトとサッカー部メンバー数人が立っていました。

私が、如何したと話しかけると息子を見送りに来た、息子を驚かせたいので内緒でいて下さいと返事が返ってきました。私は驚きもありましたが、仲間（友達）って良いなと感じた瞬間でした。その後、息子が家から出てきて、仲間が見送りに来てくれた事にテレながら会話をしている姿を見て良い仲間がいて幸せ者だと思います。

中学3年間を思い返すと、1・2年生の頃は自分の考えを主張し、考えが合う人とは仲良くできるものの、考えが合わない人に対し時には対立しトラブルが生じたこともありました。3年生になりクラスのメンバーも変わり、新しいメンバーで学校行事を進めていく中、仲間の影響もあり本人も少しずつ周りに合わせる・意見を聞くことが出来る様になり、家で学校生活の話の聞くと充実感が伝わってきました。

そして、少しにやにやしながら、「あのさ、評議委員になったから。立候補だけだ。」私は全く身の程知らずと思いましたが、同時に、たくましさも感じました。知り合いがいなかったからこそ、積極的に周りに関わり仲間を作っていくようにしている息子。1週間の学校生活で、良い仲間や先輩、教師に恵まれたと感じ取ったからこそ、そうすることができたのだらうと思いました。

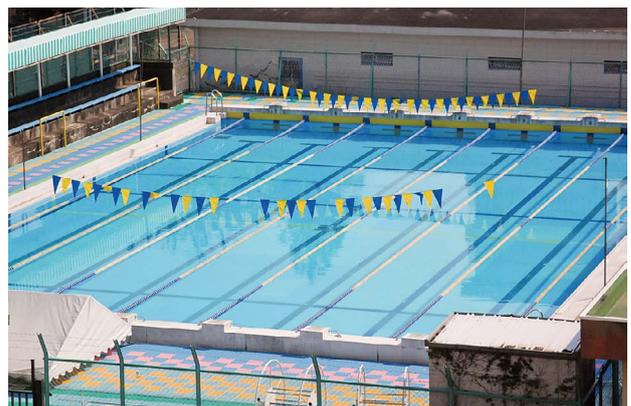
私自身も、入学式や説明会等を通し、寮の先輩方の自主性は本当に素晴らしいと感じましたし、高専出身の知人も寮生活で自分が成長できたと言っていました。息子には、技術者になりたいという夢につながる高専での学習とともに、自主自律を基本とする寮生活を通して、人間として大きくたくましく成長することを期待しています。そして、大人へと大きく変わるこの年代を共に過ごす仲間たちと切磋琢磨し、生涯の友となるような絆を深めていってほしいと思います。

マイペースな息子のことで、今後、先生方や周りの方々にも多々ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、ぜひ温かくも厳しい目で御指導をよろしく願います。

高専生活を送るにあたり、もちろん勉強も頑張るしてほしいのですが、まずは人との繋がりを大切にしてほしいと思います。高専には、知っている同級生・先輩は1人もいません。人付き合いとしたりゼロからの出発です。一般の高校では経験できない寮での生活とそこに携わる人との繋がりを大切に、卒業を迎えるまでには、入学式に見送ってくれた『仲間』と同じくらいの『仲間』を高専でも築いてほしいと思います。

最後に、青春時代にできた仲間は一生の友だと私は考えます。

本人もまだ未熟のため、これからいろいろなハードルが有ると思いますが、良い仲間と高専生活を過ごし社会に必要とされる技術者に成長してほしいと思います。



## 事務部から

### 平成26年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、アメリカのオープンハウスを参考に、中学生その他の参加者に、沼津高専を自分の目で見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学の意味を固めていただくことを目的としました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

1日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮食事体験、学生会企画及びクラブ紹介、進学相談、学内施設紹介などです。保護者及び中学校の先生方に好評を得ております進学説明会は、午前2回、午後1回の計3回実施します。この1日体験入学によって、毎年多数の生徒が本校を知り、入学を志望、決意するものと思われます。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩・又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いいたします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月

23日(水)となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。

### 1日体験入学

記

1. 日時 平成26年8月9日(土) 9:00~15:00
2. 場所 沼津工業高等専門学校全域
3. 実施内容
  - (1) 進学説明会
  - (2) 進学相談
  - (3) 各学科・専攻科紹介
  - (4) 学内施設紹介
  - (5) 学生会企画及びクラブ紹介
  - (6) 学生寮食事体験
  - (7) その他
4. 1日体験入学ホームページアドレス  
[http://www.numazu-ct.ac.jp/nct\\_hp\\_new/opencampus/taikennyugaku/index.html](http://www.numazu-ct.ac.jp/nct_hp_new/opencampus/taikennyugaku/index.html)



進学説明会



学科企画

## 平成26年度(8月~3月)行事予定表

## 平成26年

**8月** 1日(金) 前期末試験(7月31日より6日まで)  
7日(休) 終業式・大掃除・閉寮式  
8日(金) 夏季休業(9月12日まで)  
9日(土) 一日体験入学  
19日(火) 全国高専体育大会(31日まで)  
編入学試験  
29日(金) 編入学予定学生説明会

**9月** 12日(金) 寮生リーダー研修(14日まで)  
16日(火) 授業再開  
専攻科後期授業開始  
26日(金) 2年生ミニ研究発表会  
29日(月) 後期授業開始

**10月** 1日(休) 4年工場見学(3日まで)  
5日(日) 中学生のための体験授業  
12日(日) 東海北陸地区ロボコン大会  
21日(火) 体育祭・学生総会  
23日(休) 2年特別研修  
31日(金) 高専祭準備

**11月** 1日(土) 高専祭・体験授業(2日まで)  
3日(月) 高専祭片付け  
5日(水) 文化講演会  
9日(日) 東海地区高専体育大会(ラグビー・フットボール)  
10日(月) 授業参観・学科説明会(14日まで)  
15日(土) 東海北陸地区英語スピーチコンテスト  
1・2年TOEIC Bridgeテスト  
3・4年TOEIC IPテスト  
23日(日) ロボコン全国大会  
25日(火) 中間試験(12月1日まで)

**12月** 1日(月) テクノフォーラム  
4日(休) 専攻科入学説明会(予定)  
10日(水) 3年課外教育特別講演  
3年合宿研修説明会  
13日(土) 4年工学系数学統一試験  
20日(土) 留学生交流会(22日まで)  
22日(月) 終業式・大掃除・閉寮式  
24日(水) 冬季休業(1月2日まで)

## 平成27年

**1月** 5日(月) 授業再開  
10日(土) 専攻科2年生研究発表会  
15日(水) 3年到達度試験(数学・物理)  
20日(火) 長期インターンシップ報告会(予定)  
21日(水) 3年インターンシップ説明会  
3年合宿研修説明会  
22日(木) 3年合宿研修(23日まで)  
25日(日) 推薦入試  
27日(火) 専攻科後期試験(2月2日まで)

**2月** 2日(月) 春季合宿説明会  
5日(木) 学年末試験(12日まで)  
15日(日) 学力入試  
23日(月) 入学者選抜合格発表  
24日(火) 終業式・大掃除・閉寮式  
5年卒業研究(26日まで)  
25日(水) 1~4年補講・補習(26日まで)  
臨時休業(3月18日まで)  
27日(金) 5年卒業研究発表(3月2日まで)

**3月** 1日(日) 寮生リーダー研修(3月3日まで)  
2日(月) 専攻科臨時休業(18日まで)  
5日(木) 入学説明会  
6日(金) 5年卒業判定会議  
12日(水) 1~4年進級判定会議  
18日(火) 卒業式・修了式  
19日(水) 学年末休業(31日まで)



